

口腔の役割

長良川の鵜飼(うがい)

毎年、ゴールデンウィークが終わり5月11日を迎えると、岐阜長良川鵜飼が始まります。鵜飼は鵜匠(うしゅう)が鵜(う)をあやつり魚を捕える漁法で、およそ1300年の歴史があり、時の権力者たちに保護されてきたといわれます。

実は「うがい」の由来はこの「鵜飼」にあります。鵜に魚を飲み込ませ、その後これを吐き出させる様子が似ているので「うがい」と呼ばれるようになったそうです。

「うがい」とは、水や薬液などを口に含み、のどをすすいで口腔に残っている食物のかすや埃(ほこり)、細菌などを除去する行為のことを言いますが、この「うがい」にも種類があります。

口中の洗浄については「ブクブクうがい」、のどの洗浄については「ガラガラうがい」と言います。「ブクブクうがい」の方法は、水を含んで口を閉じ、頬を膨らませたり元に戻したりを交互に素早く行ってすすぎます。「ガラガラうがい」は水を含んで口を開き、上を向いて息を吐きます。

「ガラガラうがい」は、日本では古くは平安時代から行われてきたとされています。欧米では「下品」な行為とみられ、ほとんど行われませんが、しかし英語には「うがいをする」、「うがい」、「うがい薬」の意味で「ガーグル:gargle」というれっきとした単語があり、語源は「がーぐるぐるぐる…」というガラガラうがいの音からきているというから不思議です。一方、「ブクブクうがい」は「すすぐ」の意味をもつ「リンス:rinse」を使います。

1444年(文安元年)に成立した国語辞典『下学集』には、「鵜飼(うがい)嗽(くちすすぐ)也」とあるのだそうです。

かがり火を焚いて鮎などをおびき寄せ、鵜に魚を捕獲させ、引き上げて吐かせる…このような漁法を昔の人はよく考えついたものです。

「うがい」の語源となった「鵜飼」



長柄川鵜飼(木曾街道六十九次) 溪斎英泉作

岐阜県博物館所蔵

【歯科口腔外科診療部長 今井 正之】

